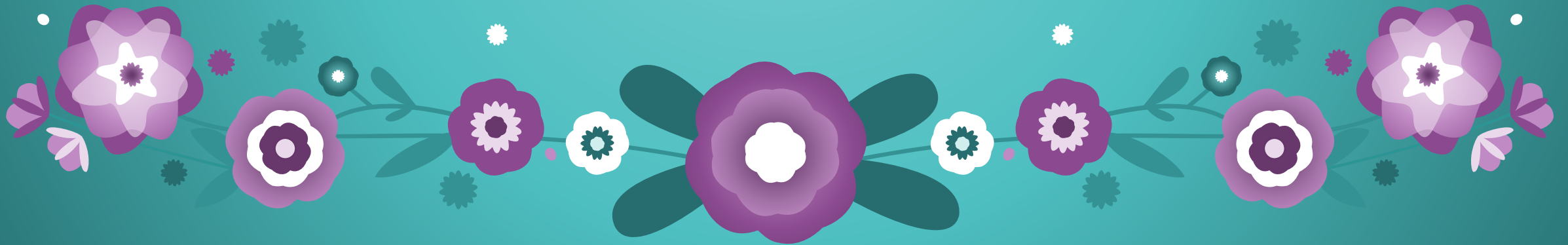


チェリー通信6月号



イベント情報

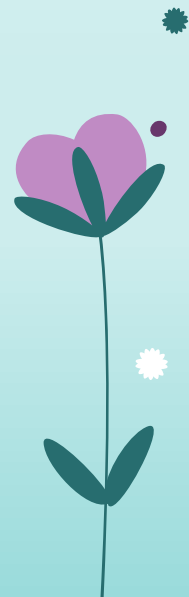
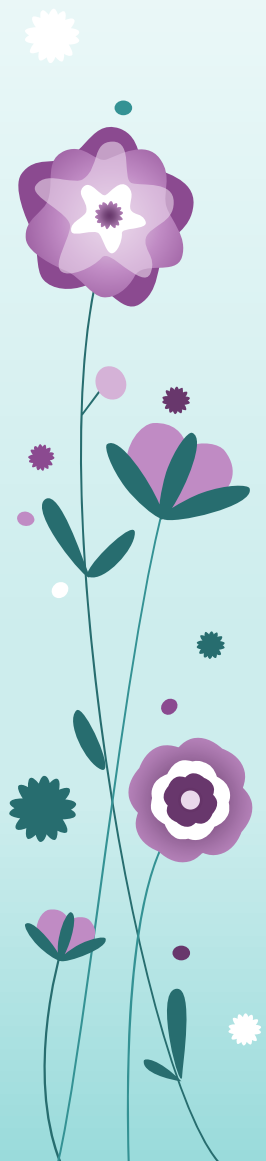
- ・ 3日（月）任意個人面談（きりん）
- ・ 4日（火）任意個人面談（こぎつね）

ベガルタ仙台キッズキャラバン

- ・ 5日（水）任意個人面談（はくちょう）
- ・ 6日（木）任意個人面談（くじゃく）
- ・ 7日（金）任意個人面談（ペガサス）
- ・ 10日（月）任意個人面談（オリオン）
- ・ 11日（火）任意個人面談（アンドロメダ）

サッカー教室（ペガサス、オリオン、カシオペア）

- ・ 12日（水）任意個人面談（ホワイト）
- ・ 13日（木）任意個人面談（オレンジ）
- ・ 20日（木）音楽教室（オリオン、ホワイト）
- ・ 21日（金）避難訓練
- ・ 25日（火）体育教室（アンドロメダ、カシオペア）



園長のおススメ〇〇

今月はおすすめの絵本とその絵本のおススメポイントを園長の独断と偏見でお伝えします。

著者 せなけいこ

せなけいこさんの絵本をご存じの方は表紙を見ただけでそのシリーズであることがピンとくるほど昔から親しまれ、シリーズとしても非常に多くの絵本があります。

昨今では“ちいかわ”がマンガ、アニメで人気ですが、あの人気要素の一つに“キャラクターの可愛さ”だけでなく、可愛い絵やキャラクターとギャップのある“リアルな恐さ”“リアルな心情”にもあるように感じます。

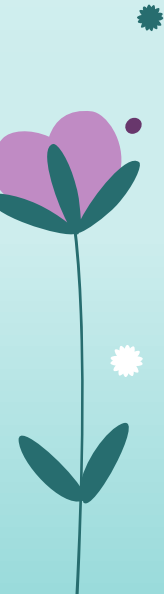


せなけいこさんは切り絵で表現をされた作品がほとんどで、柔らかい印象が老若男女、だれでも“ほっこりする絵”で定評があるのですが、その物語の題材やストーリーはリアルな怖さが時に遠慮なく描かれておりギャップを感じさせます。

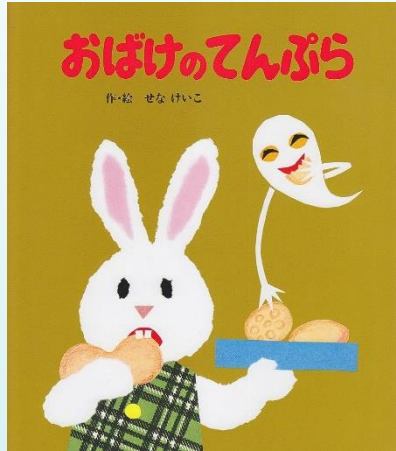
冒頭で少し触れた“ちいかわ”とギャップ構造は似ております

そのため、大人が子どもに読み聞かせるときも、読み方が稲川淳二風になってしまい（笑）読んでいて大人も楽しめる（絵本なのに没入できる）作品となっております。

子どもに対しても年齢問わず楽しめる不思議な魅力が、せなけいこさんの絵本にはあります。



一般的に絵本などは書店でも推奨年齢が表示され、親切な書店ほど年齢毎のおすすめ絵本が分類されて並べられております。



私たち保育者もそれらを参考にしつつ、各年齢ごとに楽しめそうな絵本を選んでクラスに置いたり、読み聞かせたりするのですが、せなけいこシリーズはストーリーがリアルであるにも関わらず低年齢でも引き込まれてしまう魅力があります。

絵がかわいく、文章表現としては非常に簡単で語彙が少なく、センテンスも短いため、一見すると年齢が高い子には物足りないかなあ・・・と思いきや、前述のリアルなストーリーに引き込まれ、逆に理解力、想像力の高い子ほど怖さを感じてしまい、お化け屋敷のようなエンタメ作品となります。

以上のように、せなけいこシリーズの絵本は年齢を選ばないところも非常に魅力でありおススメできるところかと思えます。

私自身もせなけいこシリーズ内で好きな物語をいくつか持っておりますし、20年読み続けて未だに自分で持っておきたい絵本の一つとなっております。

(友人の出産祝いなどでも必ずプレゼントします！)

書店には必ず置いてあるシリーズですので、絵本をお探しの際はぜひ検討してみてくださいはいかがでしょうか？

